

医道審議会 医師分科会 医師臨床研修部会 議事次第

(臨床研修にかかる修了基準等について：第4回)

平成17年5月23日(月)

16時00分～18時00分

厚生労働省 共用第7会議室

○ 開 会

○ 議 事

1. 医師臨床研修の修了基準等について
2. その他

○ 閉 会

資 料

医師の臨床研修における修了の基準に関する提言(案)

1 医師の臨床研修における修了等の基準に関する提言（案）

2
3
4

5 1. はじめに

6

7 医師の臨床研修については、平成12年の医師法（昭和2
8 3年法律第201号）の一部改正により、平成16年4月よ
9 り新たな臨床研修制度が開始され昭和43年のインターン制
10 度廃止以来36年ぶりに抜本的な改革が行われることとなっ
11 た。すなわち、診療に従事しようとするすべての医師は、臨
12 床研修を受けなければならない（必修化）こととされ、また、
13 これに併せて、臨床研修の内容の検討を進め、医師が、適切
14 な指導体制の下で、医師としての人格をかん養し、プライマ
15 リ・ケアを中心に幅広く医師として必要な診療能力を効果的
16 に身に付けることができるものとする事とされた。平成1
17 8年3月には新たな臨床研修制度の下での最初の研修修了者
18 が生まれようとしているところである。

19

20 医師の臨床研修の修了に関しては、研修管理委員会が、研
21 修期間の終了に際し、臨床研修に関する当該研修医の評価を
22 行い、単独型臨床研修病院又は管理型臨床研修病院の管理者
23 （以下「管理者」という。）に対し、当該研修医の評価を報告
24 しなければならないこととなっている。そして、管理者は研
25 修管理委員会の評価に基づき、研修医が臨床研修を修了した
26 と認めるときは、速やかに、当該研修医に対して、臨床研修
27 修了証を交付しなければならないこととなっている。

28 また、研修の中断については、管理者が研修管理委員会の
29 勧告または本人の申し出に基づき判断を行うこととなる。

30 本提言においては、研修管理委員会による評価及び管理者

1 による研修の修了、未修了あるいは中断の基準等を示すこと
2 により、その判断が適切に行われ、全国で臨床研修修了者の
3 水準の確保が図られることを目的とする。

4
5 なお、臨床研修を行う大学病院においては、臨床研修の機
6 会を提供するに当たって厚生労働大臣の指定を受けることを
7 要しないが、全国で一定以上の水準を確保するためには、大
8 学病院においても、本提言に示す基準に則って修了、未修了
9 及び中断の判断を行うことが必要である。

10 11 12 13 2. 修了の評価・認定についての基本的な考え方

14
15 評価に当たっては、各臨床研修病院、臨床研修協力施設は
16 指定審査の際に研修プログラムや指導体制等が、医師として
17 の人格をかん養し、幅広く医師として必要な診療能力を身に
18 つけることができる内容であり、指定基準を満たしている
19 ということが既に確認されているため、原則として、各研修医
20 が一定以上の期間、研修プログラムに則った研修を行い、臨
21 床研修の到達目標が達成されていれば臨床研修を修了したと
22 判断することが適当である。

23 研修医の評価を行う際には、各分野における評価について
24 は担当指導医が、研修期間を通じた評価についてはプログラ
25 ム責任者が行い、最終的な評価を研修管理委員会が行う。そ
26 して、研修管理委員会の評価に基づいて、管理者が臨床研修
27 の修了を認定することとなっている。臨床研修を実施してい
28 る間、指導医等研修医の指導にあたる者は、適宜、各研修医
29 の研修の進捗状況を把握・評価し、修了基準に不足している

1 部分を補い、あらかじめ定められた期間（2年）内に臨床研
2 修を修了することができるよう配慮する必要がある。

3 研修修了の判断にあたっては、実際の研修実施期間の評価
4 及び臨床研修の到達目標の達成度の評価に分けて評価を行う
5 必要がある。なお、最終的な認定にあたっては絶対評価を用
6 いることとすべきである。

10 3. 評価・認定等における関係者の役割

12 3-1 指導医等

14 指導医は、担当分野における研修期間中、各研修医ごとに
15 臨床研修の到達目標の達成状況を把握し、担当分野の研修期
16 間終了後に、研修医の評価をプログラム責任者に報告するこ
17 ととなっている。評価にあたって指導医は、研修医の指導を
18 行った、あるいは研修医と共に業務を行った医師、看護師そ
19 の他の職員と十分情報を共有し、それぞれの評価を把握した
20 上で、責任を持って評価を行うこととすべきである。

21 また、指導医は研修医とよく意志疎通を図り、実際の状況
22 と評価に乖離が生じないように努める必要がある。

23 一方、研修医が指導医の評価を行うことは、指導医の資質
24 の向上に資することが考えられ、実施することが望ましい。

26 3-2 プログラム責任者

28 プログラム責任者は、研修医ごとに臨床研修の到達目標の
29 達成状況を把握し、研修プログラムにあらかじめ定められた
30 研修期間の終了時までには、全ての研修医が臨床研修の到達目

1 標を達成できるよう、全研修期間を通じて研修医の指導を行
2 うとともに、その研修期間の終了の際には、研修管理委員会
3 に対して、研修医ごとに臨床研修の到達目標の達成状況を報
4 告することとなっている。

5 プログラム責任者は、定期的に、さらに必要に応じて各研
6 修医の研修の進捗状況を把握・評価し、修了基準に不足して
7 いる部分についての研修が行えるよう指導医に情報提供する
8 等、研修医が有効な研修が行えるよう配慮するべきである。

9 10 3-3 研修管理委員会

11
12 研修管理委員会は、研修医の管理及び研修医の採用・中断
13 ・修了の際の評価等臨床研修の実施の統括を行うこととされ、
14 研修医の研修期間終了に際しては、研修医の評価を行い、管
15 理者に対し、当該研修医の評価を報告しなければならないこ
16 ととなっている。

17 また、同委員会は、研修医が臨床研修を継続することが困
18 難であると認める場合には、当該研修医がそれまでに受けた
19 臨床研修に係る当該研修医の評価を行い、管理者に対し、当
20 該研修医の臨床研修中断を勧告することができることとなっ
21 ている。

22 同委員会においても、必要に応じて指導医やプログラム責
23 任者から各研修医の研修進捗状況について情報提供を受ける
24 等により、各研修医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基
25 準に不足している部分についての研修が行えるようプログラ
26 ム責任者や指導医に指導・助言する等、研修医が有効な研修
27 が行えるよう配慮するべきである。

1 3 - 4 単独型・管理型臨床研修病院の管理者

2

3 管理者は、責任をもって、受け入れた研修医についてあら
4 かじめ定められた研修期間内に臨床研修が修了できるよう努
5 めるべきである。

6 管理者は、研修管理委員会の評価に基づき、研修医が臨床
7 研修を修了したと認めるときは速やかに臨床研修修了証を交
8 付し、修了していないと認めるときは、速やかに当該研修医
9 に対して、理由を付してその旨を文書で通知しなければならないこととされている。

10
11 また、管理者は研修管理委員会の勧告又は研修医の申出を
12 受けて、当該研修医の臨床研修を中断することができるが、
13 中断した場合には、当該研修医の求めに応じて、速やかに当
14 該研修医に対して臨床研修中断証を交付しなければならない
15 こととされている。なお、このような場合においても、管理
16 者は当該研修医に対し、適切な進路指導を行うべきである。

17

18

19

20 4. 評価方法

21

22 4 - 1. 研修期間中の評価（形成的評価）

23

24 各研修医及び指導医は「臨床研修の到達目標」に記載され
25 た個々の項目について、研修医が実際にどの程度履修したか
26 随時記録を行う必要がある。

27 研修の進捗状況の記録については、研修医手帳を利用する
28 ほか、インターネットを用いた評価システムなどの活用も考
29 えられる。

1 指導医等は定期的に、さらに必要に応じて研修の進捗状況
2 の把握・評価を行い、各研修医が修了基準に不足している部
3 分を研修できるよう配慮すると共に、評価結果を研修医にも
4 知らせ、研修医、指導スタッフ間で評価を共有し、より効果
5 的な研修へとつなげるべきである。
6

7 4 - 2 . 研修期間終了時の評価（総括的評価） 8

9 研修医の研修期間の終了に際し、プログラム責任者は、研
10 修管理委員会に対して研修医ごとの臨床研修の目標の達成状
11 況を報告する。その報告に基づき、研修管理委員会は研修の
12 修了認定の可否についての評価を行う。

13 評価は、研修実施期間の評価及び臨床研修の到達目標の達
14 成度の評価（経験目標等の達成度の評価、臨床医としての適
15 性の評価）に分けて行うべきである。
16
17
18

19 5 臨床研修の修了基準 20

21 5 - 1 研修実施期間の評価 22

23 研修医は、2年間の研修期間について、以下に定める休止
24 期間の上限を減じた日数以上の研修を実施しなければ修了と
25 認められるべきではない。
26

27 (1) 休止の理由

28 研修休止の理由として認められるものは、傷病、妊娠、出
29 産、育児、その他正当な理由（プログラムで定められた年次
30 休暇を含む）とするべきである。

1
2 (2) 最低履修期間等についての基準

3 研修期間（２年間）を通じた休止期間の上限は９０日（研
4 修機関（施設）において定める休日は含めない）とするべき
5 である。

6 ただし、原則として、内科については４月以上、外科、救
7 急（麻酔科を含む）については２月以上（但し、救急は連続
8 した１月以上の期間と不連続の宿日直期間を合わせて２月以
9 上でも可とする）、それ以外の必修科目については、各分野
10 １月以上の最低履修期間を確保することが必要である。これ
11 を満たしていない場合は、選択科目の期間を利用する等によ
12 り、研修期間内に各科目の最低履修期間を満たすよう努める
13 べきである。

14
15 (3) 休止期間の上限を超える場合の取扱い

16 研修期間終了時に当該研修医の研修の休止期間が９０日を
17 超える場合には未修了とするべきである。この場合、原則と
18 して引き続き同一の研修プログラムで研修を行い、９０日を
19 超えた日数分以上の日数の研修を行うことが必要である。

20 また、基本研修科目又は必修科目で最低履修期間を満たし
21 ていない場合にも、未修了として取扱い、原則として引き続
22 き同一の研修プログラムで当該研修医の研修を行い、不足す
23 る期間以上の期間の研修を行うことが必要である。

24
25 (4) その他

26 プログラム責任者は、研修休止の理由の正当性を判定し、
27 履修期間の把握を行うべきである。研修医が修了基準を満た
28 さなくなる恐れがある場合には、事前に研修管理委員会に報
29 告・相談するなどして、対策を講じ、当該研修医があらかじ

1 定められた臨床研修期間に研修を修了できるように努める
2 べきである。

3 4 5-2 臨床研修の到達目標（臨床医としての適性を除く）の 5 達成度の評価

6
7 研修の達成度の評価においては、あらかじめ定められた研
8 修期間を通じ、各到達目標について達成したか否かの評価を
9 行い、少なくともすべての必修項目について目標を達成しな
10 ければ、修了として認めるべきではない。

11 個々の到達目標については、研修医が医療安全を確保し、
12 かつ、患者に不安を与えずに行うことができる場合に当該項
13 目を達成したと考えるべきであり、手技等の巧拙は問わない
14 こととすべきである。

15 16 5-3 臨床医としての適性の評価

17
18 管理者は、研修医が以下に定める各項目に該当する場合は
19 修了と認めるべきではない。

20 なお、臨床医としての適性の評価は非常に困難であり、極
21 めて慎重な検討が必要である。原則として、当該研修医が最
22 初に臨床研修を行った臨床研修病院においては、その程度が
23 著しい場合を除き臨床医としての適性の判断を行うべきでは
24 ない。少なくとも複数の臨床研修病院における臨床研修を経
25 た後に行うべきである。

26 27 (1) 安心、安全な医療の提供ができない場合

28 研修医としての未熟さゆえ、ある程度はやむを得ないが、
29 著しくミスが多く医療安全を確保できない、あるいは患者と

1 意志疎通ができず不安感を与える場合等には、まず、指導医
2 が中心となって、当該研修医が患者に被害を及ぼさないよう
3 十分注意しながら、指導・教育すべきである。十分な指導に
4 も関わらず、改善せず、患者に被害を及ぼす恐れが高い場合
5 には、未修了、中断の判断もやむを得ないものとする。

6 7 (2) 法令・規則が遵守できない者

8 犯罪行為を行う等、医道審議会の処分対象となる者の場合
9 には、「行政処分を受けた医師に対する再教育に関する検討
10 会」の議論に基づく再教育に委ねるべきである。

11 迷惑行為、遅刻、チーム医療を乱す等の問題に関しては、
12 まず在籍病院において、十分指導・教育すべきである。原則
13 としてあらかじめ定められた期間を通して指導・教育し、臨
14 床研修期間の終了時においても、なお、医療の適切な遂行に
15 支障を来す場合には、未修了もしくは中断とすることもやむ
16 を得ないものとする。

17 18 (3) 重大な傷病の罹患

19 傷病によって適切な診療行為を行えない状態が長期にわた
20 り、研修期間終了時に、到達目標を達成していない、あるい
21 は研修実施期間が不足している場合には未修了となる。

22 なお、当該傷病又はそれに起因する障害等により当該臨床
23 研修病院では研修不可能であるが、それを補完・支援する環
24 境が整っている他の臨床研修病院では研修可能な場合には、
25 中断をして病院を移ることを可とすべきである。

26 27 28 29 6 臨床研修の中断・未修了について

1

2 6-1 基本的な考え方

3

4

臨床研修の中断とは、現に臨床研修を受けている研修医について研修プログラムに定められた研修期間の途中で臨床研修を中止することをいうものであり、原則として病院を変更して研修再開することを前提としたものである。

8

9

10

11

12

臨床研修の未修了とは、研修医の研修期間の終了に際する評価において、研修医が臨床研修の修了基準を満たしていない等の理由により、管理者が当該研修医の臨床研修を修了したと認めないことをいうものであり、原則として、引き続き同一の研修プログラムで研修を行うものである。

13

14

15

16

プログラムを提供している管理者及び研修管理委員会には、あらかじめ定められた研修期間内に研修医に臨床研修を修了させる責任があり、安易に未修了や中断の扱いを行うべきではない。

17

18

19

20

21

22

23

24

25

やむを得ず研修の中断や未修了の検討を行う際には、管理者及び研修管理委員会は当該研修医及び研修指導関係者と十分話し合い、当該研修医の研修に関する正確な情報を十分に把握する必要がある。さらに、研修医が中断しないで臨床研修を継続できる方法がないか検討し、研修医に対し必要な支援を行う必要がある。これらを通じて、中断・未修了という判断に至る場合にも当該研修医が納得するよう努めるべきである。なお、この様な場合においては、経緯や状況等の記録を残しておくべきである。

26

27

28

29

また、必要に応じて事前に地方厚生局に相談をするべきであるとともに、中断・未修了の取扱いを行った場合に地方厚生局が把握できるような仕組みを作るべきである。

1 6 - 2 中断

2

3 (1) 基準

4 中断には、「研修医が臨床研修を継続することが困難であると
5 研修管理委員会が評価、勧告した場合」と「研修医から管
6 理者に申し出た場合」の2通りある。

7 管理者が臨床研修の中断を認めるには、以下のようなやむ
8 を得ない場合に限るべきであり、例えば、臨床研修病院また
9 は研修医による不満のように、改善の余地があるものは認め
10 るべきではない。

11 ① 妊娠、出産、育児、傷病等の理由により研修を長期にわ
12 たり休止し、そのため修了に必要な研修実施期間を満たす
13 ことができない場合であって、研修を再開するときに、当
14 該研修医の履修するプログラムの変更、廃止等により同様
15 のプログラムに復帰することが不可能であると見込まれる
16 場合。

17 ② 当該臨床研修病院の廃院、指定取り消しその他の理由に
18 より、当該研修病院が認定されたプログラムの実施が不可
19 可能な場合。

20 ③ 当該研修医が親の介護等を行わなければならない場合。

21 ④ 研修医が臨床医としての適性を欠き、当該臨床研修病院
22 の指導・教育によっても改善不能な場合。

23 ⑤ その他正当な理由がある場合

24

25 (2) 中断した場合

26 管理者は、当該研修医の求めに応じて、速やかに、当該研
27 修医に対して臨床研修中断証を発行しなければならない。こ
28 の時、管理者は、研修医の求めに応じて、臨床研修の再開
29 行えるような他の臨床研修病院を紹介する等の支援を行う必

1 要がある。

3 (3) 臨床研修の再開

4 臨床研修を中断した者は、自己の希望する臨床研修病院に、
5 臨床研修中断証を添えて、臨床研修の再開を申し込むことが
6 できるが、研修再開の申し込みを受けた臨床研修病院の管理
7 者は、研修の修了基準を満たすための研修スケジュールを地
8 方厚生局に提出する必要がある。

10 6-3 未修了

11
12 未修了とした場合、当該研修医は原則として引き続き同一
13 の研修プログラムで研修を継続することとなるが、その場合
14 には、研修プログラムの定員を超えてしまう事もあり得るこ
15 とから、指導医1人当たりの研修医数や研修医1人当たりの
16 症例数等について、プログラムに支障を来さないよう、十分
17 な配慮が必要である。

18 また、この時、管理者は、当該研修医が臨床研修の修了基
19 準を満たすための研修スケジュールを地方厚生局に提出する
20 必要がある。